

Interaction から Interface へ

研究組織委員会委員長 榎本 肇

Interaction は行為、活動の間の相互作用であって、システム間の Interaction としては、両者の間で、激しい議論や、物理的アクションによる相互干渉から、情報交換まで種々の様相のものがある。Interaction がシステム間を Integration して、有機的システムとなるが、システムの進化を考えると、Interaction の様相は、初期段階では激しく、システムの構造変化を伴いつつ、システムとして安定化に向いシステム間での良い Interface がシステムの協調性を高め、高い効率と信頼性が生じる。

音楽は、種々の楽音の相加性が、独特のハーモニーを生みだす。特にオーケストラの場合指揮者のタクトによって、奏楽のテンポや強弱が調整され、人々の感動をよぶ。

映像は、対象個体の相互作用が、選択的マスキング効果を通じて強調され、仮想的現実感を著しく高め、臨場感を高めるメディアであって、画像を主軸に、統合化されたマルチメディアが、人間社会において、新しい文明基盤となる道を進んでいると考えられる。

いかに自然科学的文明が進もうとも、人間を中心とする文化が、文明との間で良い統合関係をもつ必要がある。文明に寄与するデザインは、人間の感性と理性、芸術性と科学性などを総合した形で実現されなければ、社会に通用しない。

これら相対立する性質群を統合するためのパラダイムの研究の重要性に着目する必要がある。自然界においても、相対立する生命と毒物が相互作用によって進化の方向に進み、遺伝子の組合せとその選択機能によって、免疫の多様性が具現されているといつてよからう。

Interaction から Interface への過程の研究開発は、素朴なものから複雑な社会システムまでを意識し、行うことが重要であろう。そして、相対立するもの間の性質と、相互作用の認識把握から、平和的、友好的、かつ効率的な Interface に至る多くのケース・スタディを必要とする。

本学会には、信号—雑音、情報源—環境、ハード—ソフト、人間—計算機など対立構造をもつ多くのサンプルと、ヒューマン・インタフェースの研究を統合する動きが著しい。この動きを大いに助長したいと考える。

会 長	熊谷信昭	編 集 長	関口利男	北海道支部長	森下俊三
副 会 長	大越孝敬・古賀利郎	規格調査会委員長	柳井久義	東北支部長	梅 良之
	末松安晴・稲場文男	研究組織委員会委員長	榎本 肇	東京支部長	桑原守二
総務理事	佐々木元・甘利俊一	基礎・境界研究グループ 運営委員会委員長	有本 卓	信越支部長	真柄成一
会計理事	西川清史・高梨裕文	通信研究グループ 運営委員会委員長	安田靖彦	北陸支部長	小泉卓也
編集理事	青山友紀・後藤 敏 中村道治・原島 博	エレクトロニクス研究グループ 運営委員会委員長	佐々木昭夫	東海支部長	鈴木宣夫
企画理事	下村尚久・田崎公郎	情報・システム研究グループ 運営委員会委員長	辻 三郎	関西支部長	山本誠實
調査理事	堀口孝雄・柳川隆之			中国支部長	中山 浩
監 事	黒川兼行・池田博昌			四国支部長	牛田明夫
				九州支部長	長田 正